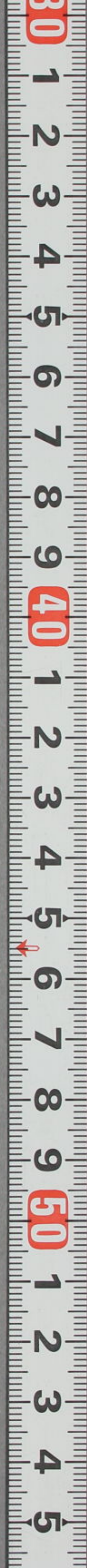




又 6
9668
4



若洲良氏傳卷之四

多溪村又云泉 同村長云泉 八右泉

安右泉 宇右泉 一河 傳田泉

若泉 壹云泉

本保村之市右泉

笠屋甚云市女

福井幸七

清水若右泉

足田村安右夫妻



三生野村八右衛門

兼田村

桶屋庄右衛門娘云々

堀口次之清妻志守ん

新乃野孫云々



若洲良民傳卷之四

多溪村又兼田村長兼八右衛門 安右衛門

宇右衛門 一海 伴四郎 善茂 兼兼

又兼ハ三方郡多溪村の農民也氏と今川といふ

久しく邑の里番とつとむ人となり正妻ありて人

徳り父母は事つく孝あり又能主邑中此氏と懐

く育て人乃若とんくハかの道出すがめくそとたび

厚く褒揚し人乃悪とてまてハかの道宿むがぶとく

是とけけき深く教諭をある一邑能信り孝子

孫おついで見るを偏は又云ふが教化は固まる也
さうんま一二事とわけて云ふ又云ふ父を尊ぶ時父
乃ち其形をひく紙に寫し表具とて父に
後いつのふけも形と教堂は無常朝夕是とおいて父
は見ゆるれはひとる一或は城下(物事)わきま必し
も形とて是と告げば亦是うはま事と告ぐ
有と云ふわきの菓子蟹菜初めの款ひあぐく
使つどといふ事又一つ時同邑の孝行はま(有
の教養と己が宅ふ集めま告げと極養一且教

訓と名おぼしめしおとと云ふ又同邑は福屋傳言
といふあり然母は事と順うすといふ振さ事
却て傳言はよく親は事とよくと奉て稱するを傳
言大なり慚悔一忽志と改め其の孝子なりひと
いふま母はびの余りは割るるまの飯をて持来
ましく又云ふは授け厚く謝れとのふは教養具は
君徳はまていふ又云ふは人となりは傳言
ま教化の一邑は乃び一孝と貴いあり安永はまの
ま金若干と給ひ又同邑八人の人極養一

且孝子の父（五）を前よ又と來が貴せと要しく
 聞（きこ）しむれ右同時よ各（おのづ）か各（おのづ）か
 一（ひと）旦（ひと）後（ご）來（き）と教（し）ふやうと自（みづか）し書（か）し
 一（ひと）家（い）ふ（ふ）荒（あ）れぬと一（ひと）と郡（ぐん）官（くわん）より令（し）て出（で）さるやうに
 一（ひと）まうたよ記（き）をて文（ぶん）ハ拙（つた）き文（ぶん）ありといふと我（われ）の
 意（い）ハ左（ひだり）の聖（せい）賢（けん）のまうと恥（はづ）る所（ところ）を今（いま）文（ぶん）
 と化（くわ）し草（くさ）せんハ本（ほん）意（い）はあつてうけし人（ひと）は聊（いさ）も愛（あい）さず
 てのせゆ又（また）來（き）死（し）す。心（こころ）前（まへ）子（こ）孫（そん）のなふ書（か）遠（とほ）く
 文（ぶん）ありまふ人（ひと）ハ兄（あに）ハ弟（あに）と情（なさけ）を弟（あに）ハ兄（あに）と敬（うやまつ）ひ友（とも）の

乃（すなは）ち遠（とほ）くべし二（ふた）度（たび）兄（あに）弟（あに）と生（な）す事（こと）難（がた）し又（また）親（おや）
 族（ぞく）と睦（むつ）みて永（とこ）く互（たがひ）に誼（ぎ）んずるは御（ご）まじき他（ほか）
 人（ひと）よ其（その）如（ごと）く又（また）下（した）人（ひと）と上（うへ）人（ひと）とを常（とこ）に情（なさけ）と
 うけと接（ふ）ふすべし一（ひと）必（かならず）此（こゝ）理（り）を信（しん）ずるは彼（かれ）皆（みな）親（おや）
 あり親（おや）のまじきとむすむといふことうけし人（ひと）ややま
 神（かみ）の鄙（ひ）俗（しやく）なりといふことまじきハ睦（むつ）み古人（こじん）の教（し）よか
 る事（こと）少（すく）しづ惜（おし）むべし一（ひと）ま書（か）病（びやう）床（と）よ年（とし）とりて
 弟（あに）のまじきとけりぬるゆゑにまじきと解（と）く解（と）く
 うけまじきと大（だい）略（りやく）とむすくこと余（よ）ハしるし今（いま）の

又々亦人抱負実母て歎いさるる一とい
 つも能父が志は遠いども父が自形と云ひく書
 写し朝夕抄並く存する事と父が言せし終
 と守りて聊も怠りども其の誠は誠なりと
 其の友の評りしと云ふは記と

孝行記

今日昨出い事ハ別の後であらず第一親孝
 新心の村中撰出し一献をい交わい
 三付は若松妻へ呼出し中いた乃人救き人

つ流せせつる耳乃座は怠りく形可

は流い

一長き事云ふ同あゝ如八十余の老母と持て
 かきこみたりと持今志づく難き事と云ふ
 方くと一献二献のつらう成賣買あれなう
 親と大切は妻とともくお肉を難と云ふ
 志上をいひふやうく流し流し人抱え
 未だ母愛あやうのかり依る處座の寝安
 して多目百歩未廣うに扇子しそ人望

あるも亦久しく〜と増えり
一安を爲けしを以て別してまづ〜とて別
孝とあり〜兄弟中むつまで別して法修を厚
くや〜かりきたりて〜砂の中れ金とては男
とびとへん美い若仲男上とて今志づるを
多苦と志のき親と大切よりゆる佛神と宝の
ゆゑともいぢる〜人〜先祖の大業は是な
らんとたまた〜くゆる先あるの褒美と
して采ふ本白浪をぬ廟子〜とてふをよめり

けしめりも利事とく〜事
一市平おつる事はのき同おの老とて結乃か食
〜書〜別〜て八十余年に及ぶ老母とてく
〜女お身〜して方〜く〜も〜ひと〜か〜で
才一よ〜〜至親いとま〜く〜世孝れ人〜も
〜ず〜と〜法修は〜ん〜厚〜く〜笑〜
とまある〜心正あ〜て後世と還る女〜は〜
〜く〜ねい〜と〜く〜き〜め〜は〜浮〜せ〜の〜習〜ひ〜は〜分
法修大切も母〜孝心〜と〜一〜は褒美は采ふ

本多目百又廟子三羽をーい

一孫次郎若茂事は若はいもど若年とつた祖父と

大切といふとすかくもかく我人若の事年より

親く若おどくく若てひぐて立居も自由

ふなりげもばわぐと若人ともうとぬるものなり

古人の言はく麒麟もをぬきバ驚馬も若ふ

てひさききものなり史とくともさぞ敬ひや

づさ兄ハ弟とあはれ弟ハ兄とあはれいて公け

一く姉妹なり唐土の郭巨ハ妻人の母をけい母

よけも若とあはれなれども若人の子とけり

け子は若もいとけりける人若なりやうよ

あうめりあはれ子とあはれけり人あはれと思ひ

子とつてもくともう若若なり完とけり既より

と埋めんとけり御ふは事天も感念地神も不

便くやおぼろん黄金の金と堀あくるう若若

も是はむとーけり人けりす志さく若目百又

廟をーやい

一六五史書事は若を親くと大切な若と



通て少及び人とも若者なりてあるまじき程も
 有る後と存居はまゝありひの介ゆてやう
 く西遊して孝公とそとて由目物友りく
 依て南あんの寝具といはは料とて多目百文
 扇子をーやい

一八左馬事は若え来小百姓とてまー人極全
 神好きりのみく九十有余の老母とてごらむ尤
 び老母近年立居も自由はぬく年九十六歳
 小近々まゐるなり日教十二時分抱はんとあつる

次は八条東丈婦より小若んきうといふ城や紅い
 藁は極てとかくきうし誰云となく不孝若くも
 かり初るあきまは座土の物落りむ昔韓乃
 必と燕といふ國と軍あり韓乃軍勢強くして
 燕の必と平げりて燕乃必と大に燕丹といふ
 若く生捕るも小はいしめて牢獄におこめ
 る事三たびあるに燕丹よりむといふと敵身と
 云いど必え乃老母の事きき那く何と我といふ
 今一度對面せん事と彰ふに時韓の必と大に韓

るはへて方圓のり度あふり鳥乃首白くあ
 王馬は角よりあふるに燕乃王とあふるに
 不忠依や弱の段は角より白く鳥王とあふるに
 びあるに時傷を汗乃てて力なく物事の
 びく必へゆす相燕の必と韓乃國とあふるに
 大河のりい河はそるに橋よりあふるに中程
 渡りてうりあはるにふたれあふるに
 け中程はあふるにやさうあふるに
 漏るもさる平地とあふるに安くとあふるに

ふと溪と川中と吟味をけき多く蛇の集り
 甲乙のせき後一多とや芝蔴は孝の威徳
 叔母ふし如ふ對面し主従隔たりとや兎角
 孝心とあつて天の毒も深く世斗はひど
 未来に懸ひる疎院乃浄土へ往生とぞ
 天満文乃清秋とぞ 仙ふ穢乃乃ふぢひ
 いふとととも神やも人親をよみや
 人柄もより先くは寝るゝは多目百文廟子と
 後ひ進んでい

一字をあげの美ささるゝをわくく人
 柄もまじりうつるがうとむかひの川乃はより
 んどゆよくありあ親への孝の本文も後乃親
 と大切といふ事あり多親とく人親と大切ふ
 と別古き詞もは越よ二枝の礼あり鳥は反哺の
 孝ありとや越も親より枝と之の隔るゆ
 鳥へ親のとくそ一ほど孝ひ人をとや虎は子に
 乃乃とのをも親りあさひ孝ふ多親とてけ
 孝とあすもして人界ふ生と交るる不孝

もくろハ禽獸^{えんじう}にあつと云或^{ある}又^{また}と云天人^{てんじん}の叫^{こゑ}
 のり^{なり}やれと云はむ天人^{てんじん}あき耐^たる自^じ由^{ゆう}自在^{ざい}
 飛^ひ行^{ぎやう}一^{いつ}常^{じやう}に喜^き樂^{らく}後^ご終^{しゆう}のあ^あ一^{いつ}かきとたり
 行^{ぎやう}進^{しん}と云^{いふ}あ^あの風^{ふう}ありぬきを終^{しゆう}ふむく
 耐^たへだんすもの苦^{くる}一^{いつ}又^{また}統^{しゆう}六^{りく}徭^{りやう}もやぶるわ
 一^{いつ}た汗^{あせ}と流^{なが}してまあひくた^たと云^{いふ}
 一^{いつ}ま耐^た天人^{てんじん}さひびて親子^{おんこ}一^{いつ}門^{もん}と云^{いふ}く看^{かん}病^{びやう}
 彩^{さい}むと云^{いふ}と天人^{てんじん}界^{かい}ありひて子^こた兄^{あに}才^{さい}立^た
 するもの終^{しゆう}と云^{いふ}く成^{なり}くや^や是^{これ}因^{いん}縁^{えん}なり

かりあ^あと云^{いふ}と一^{いつ}のむらひるるや親^{おや}
 石^{いし}母^{はは}れ^れ坐^まはば天人^{てんじん}ふむく一^{いつ}うた^{うた}あ^あ吏^し婦^ふむく
 ひうむ^{ひうむ}熊^{くま}谷^や親^{おや}子^こ四^し五^ご九^く國^{こく}乃^の大^{だい}軍^{ぐん}ありん^ても^も極^{ごく}の
 人^{ひと}あり一^{いつ}が^がと云^{いふ}と一^{いつ}軍^{ぐん}場^ばとわけて^{わけて}馬^{うま}谷^やれ
 法^{はふ}然^{ぜん}と人^{ひと}乃^のは^はず^ずと云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あ
 若^{わか}よか^かうて^て心^{こころ}と云^{いふ}と^とや^やく^く佛^{ぶつ}ありと云^{いふ}と^とあ^あ
 孝^{かう}ふる^る是^{これ}と云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あ
 子^こたも^も孝^{かう}と云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あ
 心^{こころ}と云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あは^はと云^{いふ}と^とあ^あ

をぬよ扇子式布近下い

安永三年七月十八日 今川又三浦徳

光

一 名濱村桶屋傳肥子式人持居りい見へ傳口帝と
 少年より母よりし難儀よりし居りい一門中
 う便よりいさぬくお蔭より親傳肥よりし
 へーがは女んやーたのうて別て年とすの
 うーいふとけ女子を人にもいふに先きあひと



我子の指よりしめ言不便と如年月と送り以事
 よ子た成人しし元來其乃母めく其は居る
 母は母の介を承けしし不孝の腹水
 中いち付は母めく其は居るしし不孝の腹水
 子交りし身の上難儀の以事咄し其は居る
 傳言私宅へ咄し其は居るしし不孝の腹水
 咄し其は居るしし不孝の腹水
 別て母へ孝の公心なりし其は居る
 よは居る其人の云ふし其は居る

のた人乃通り極一事が万事よく友を中へお
 てと西遊正乃しし其は居る
 古人の云ふし其は居る
 高き本は風あらし又い出の杭ありたし其は居る
 小き方が身乃しし其は居る
 よく善す事未幾昌目ありし其は居る
 悦中い出たは若悦公し其は居る
 其は居るし其は居る
 悦中い出たは若悦公し其は居る

此先天下と云ふに極き事なり母へ孝行し
 之後傳助女房松本より相傳う仕は傳傳
 義先達でわかれふふ後公居さくお威
 むつまうくおろく居やいひふふわかれ
 と此の介帳にい私書くやいふ全く私詞
 悪公が善公と成るものゝわかれ親と
 生々世々此國縁あり悪公と成る
 事家禁書とぬき始と帳にい後二三日
 くらふ又六市斗入い合榎一ツ私宅へ
 持来致すい

先達より傳傳義の弟和より親子
 中々くお書やい示合ふ存に恥し
 人といは榎右此礼の事にお来仕
 今に榎右方より書い事ハ安永二
 己年七月の比と見え一以傳傳
 今年廿二カニ成るに
 賣桶屋仕居やい

安永四年末国十二月

又會傳

本保村之部右殿

を發上中郡本保村之市を過つてる農夫あり
 素姓も沢める者も清和氏と名乗るも父と
 傳ちあつて之市を過る人となり貞實めて父母より
 事つて孝なり同邑のものも之市を過るを以て則とせり
 之妻もまた男姑より事へて随順なり父母一川の金と
 いふも常小森外なり之市を過る女目々たる如
 けあり起居と同じ室省のつめを異としども
 一日も怠るべからず父母のめくもせざるに密に
 屋の戸をひききてこゝに伺ひて安く寐る侍とて



返く又田圃は少く時母歟と拾りて御んといひ父は
歟とあうどといふとあ親乃を傷くと思て二
まぐ携へけ之を赤ん坊小瘡と病うあ親は
是と憂ふあふ伴つて金とふ伴となりて父母と
してま痛苦とあう一めずまうと療治を以て
父が抱寄る城下へ移る事あきと瘡疾愈する時
といふと必愈とて告て強くわうわ初と
父母乃ふそむん事と恐る多くい難ひう又
姑或時新うた襦袢と着てあけう傍れ人のや

あて是と同く人へ入て云彩婦あ襦袢は垢づき
と憂へ自分の彩きと知てあは若てめたる
るうまを襦袢乃彩と知てあは若てめたる
乃志と憂へ一収づきといふ人と強うては先彩婦の
若れと知てざう事なり一収十年乃るあ月常に暇
うくひるうき事あり父勝を憂ふも亦その
生質を憂る若めく久く一村乃伍長とほむ
村中能治の邑人も被がつる事ハ伝腹でといふ
ゆゆ一之病を考へも亦是根をさるる里胥

主状と那の令よきと令より
 政府よきと安
 安永又年申十二月廿日米穀石と細い
 褒

豆屋甚老翁女

甚老翁一を後上中郎中野木村の豆屋より
 こゝろどと人より主家格より
 果ては妻八十六歳あり
 老翁と妻と主家業
 ありくは子より老翁とわ
 只女一人のありて



福井幸七

言まで人とかなる母性うまれつきをふりてひそく耐えぬ

走めもいゝ事へみくさゆ多しとくも幸七
 聊も母れぬそむくす何程此理といふとも悉く
 至理ありと云て母れ許しはる母賢と稱す内と他
 りの二結いせぬるものと嫌へ幸七必自に結ひてふ
 懐ふ揺ふなり又平生母の手足は洗ひ或ハ軟外ぬ
 時ハ必しぐう衾と衣履と洗ひ安く寐さし幸七
 が見せ皆此よりありて折言へありて母と訪ふといふ
 ども母はよけある一幸七がらす事ふあつたれ

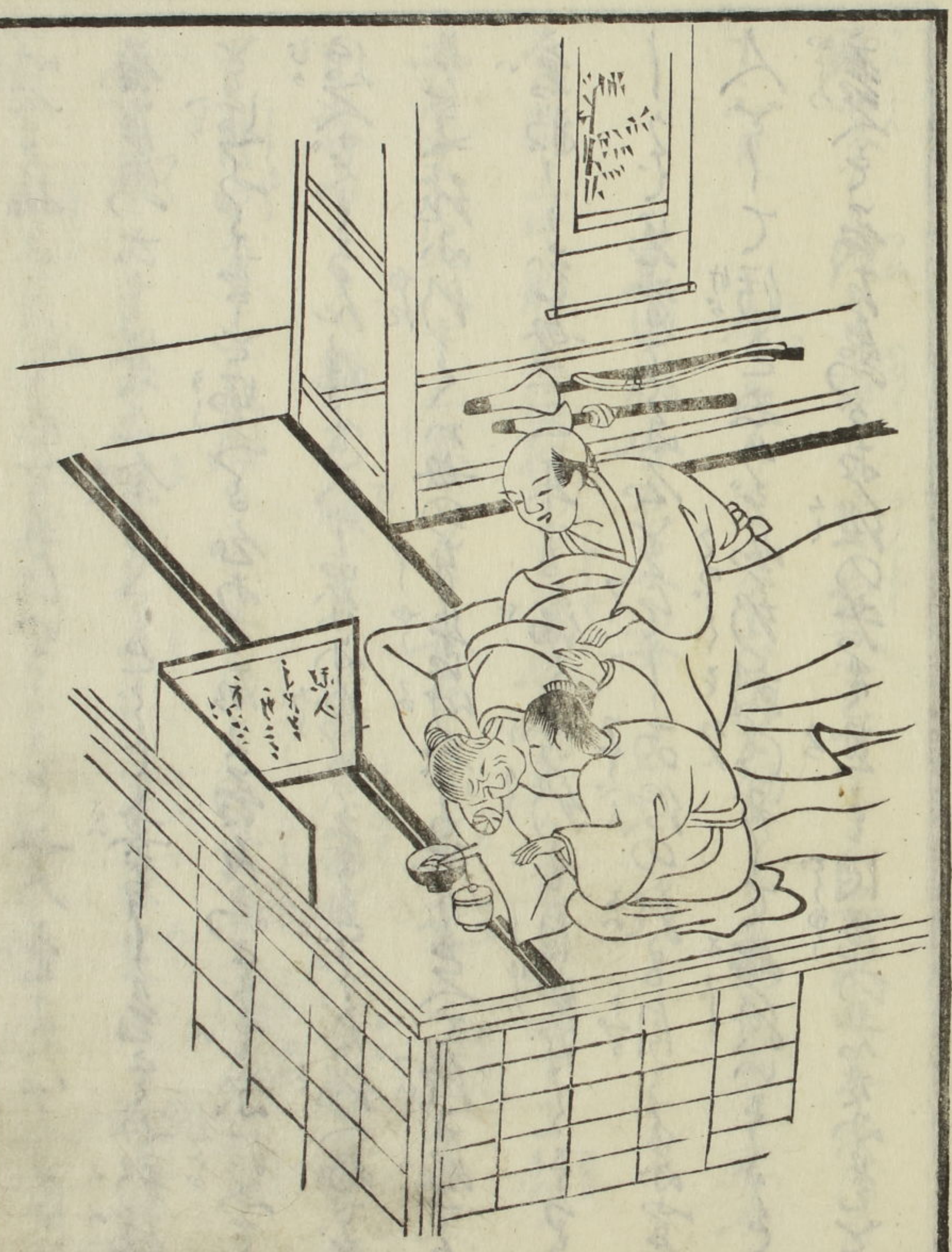
のちうさきとて母乃ゆへにさうりて家
 出でうさき母の仕業をして進出する人
 はあつんまゝと愛おしむが所存とありい
 肉體として死すの事なく死明は縁と切
 後母あつたふは返さずといふは度で
 ろう孝七は出度毎に必母告ゆふとせ
 屋ふりて起居を細く又宅の園廣くは
 母とけひひ極う整菜は好いと見せく
 厨む母かく芳りるあまの味とて箸と

んとさきとてふさうさう孝いさうと
 とある志さふあつた常れ親と能事る
 南りあかり頑るぬ親と持てる子の孝
 かと孝なうたる親をかきとて孝七人
 六菜よく父は親と母は子とせむひも
 ありてつひは孝とあつたより母一人
 苦いさうさうさうまいひかたより
 はあつたのさきふけし人より後松田家
 孝七の宅へうさきさうの母は親若と

是年と樂^{たの}ま^しせ^ばあ^らひ^ては^十ヶ^年余^りハ^力分^るこ^ゝろ^に
 と^も不^祥の^事と^も母^のし^らふ^はい^くつ^もと^も何^れの^母今^も
 年^八十^二年^と以^て終^る郷^土堂^を孝^と祿^せざ^らむ^を祈^ふ
 か^らふ^事あ^らく
 君^は徳^をな^させ^しま^はす^べき^に安^んん^じと^す
 戊^戌月^十三^日未^未年^と終^つり^て寢^まさ^る所^に

清水若女 同妹

清^{きよ}水^{みづ}若^{わかし}女^をハ^持肩^{かた}抱^か取^り花^{はな}山^{やま}軍^{ぐん}を^支組^{ぐみ}の^足輕^{あし}なり
 母^のあ^り九^十二^歳若^{わかし}女^を六^十二^歳妹^{いもうと}又^{また}十二^歳若^{わかし}女^を
 若^{わかし}女^を兄^{あに}弟^{てい}に^も母^の孝^をと^もあ^らく^一若^{わかし}女^をの^事なり

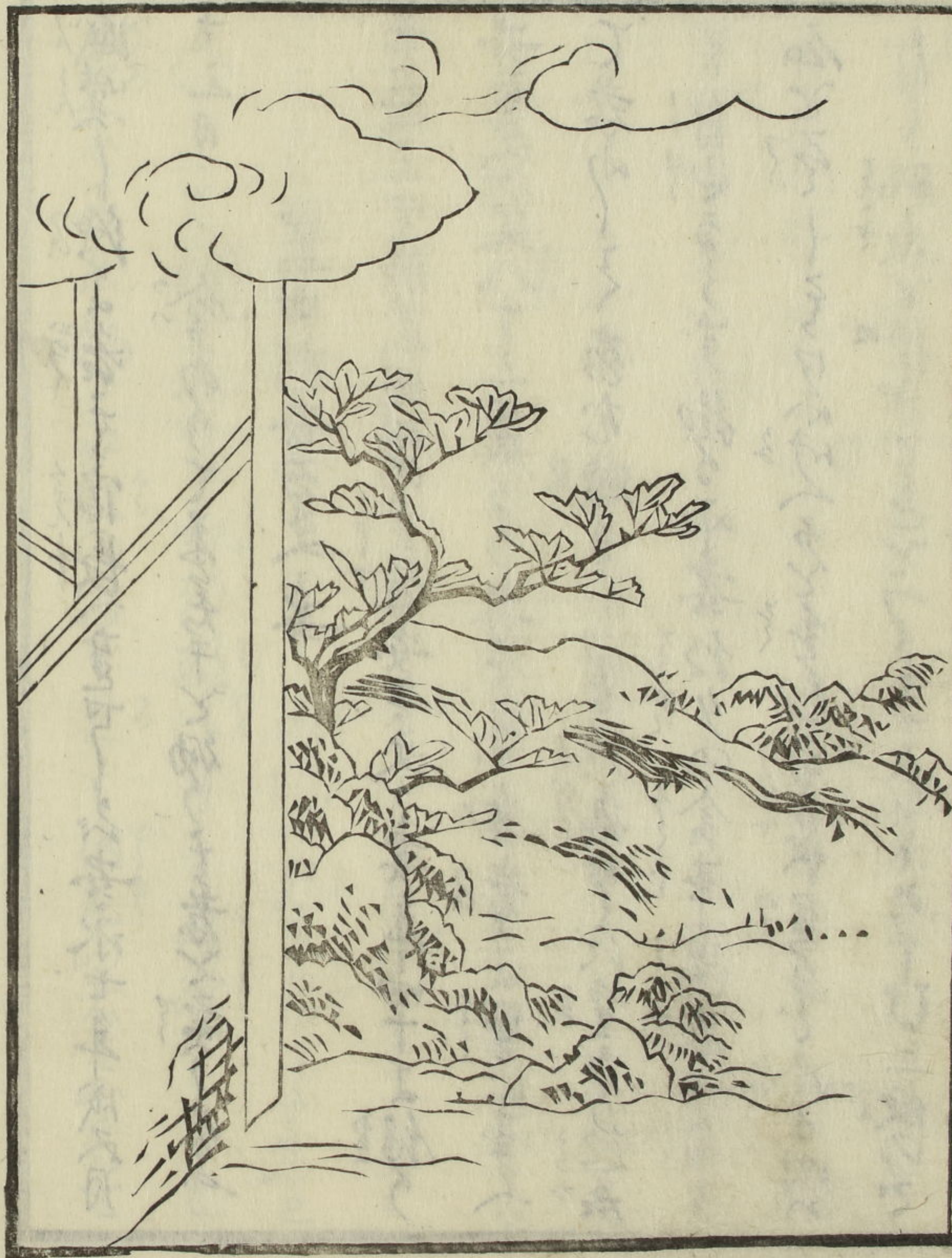


けつる振よとのゝと用ひいさうと母乃意なごるは
 長女也六十歳は余りてとて妻なり是を母新ぬ
 と違ふ事と婦つるむあるは若なりてとてふはふて
 違へども人妹も八十歳ふ余りてとて人嫁を
 是又違ふなりて母の事とけつるてとて終は嫁する
 意なりて母二三年も病むありて自由なりてと
 一もて兄弟もふとてとて一もての親も同くふと
 人としてけつる志めど物なりけつるて終はいさうと
 妻人とも長女也がお親の若なりて同邑の若なりて

感嘆一終は名を宮長（きんたん）とて安永七年戊辰月
 十二日 命ありて若なりて終はとて終はとて

黒田村安を文妻

を安永上中郡黒田村の黒田安を文妻年四十と終は
 安を文父八十三歳なり安を文が妻也又男に事へ
 て孝なりて家を睦なり男老病日に重なりて居
 も自由なりて終は小妻也夕の食事湯茶必自由
 心とてそとけつる人なりてとて終はとて
 自ら肌衣とけつることとてとてとて二役ので



したも必^{かならず}づうふけんとてま^けはるゝを^けむ
 る事^{こと}なり病中の孝^{うやまつ}盡^つさむといふやうに父
 終^{おひ}は天年^{てんねん}と云^いはれる隣里^{りんり}郷黨^{きやうたう}もこゑと稱^{ほめ}婦^{よめ}は能^{よく}
 剛^{こゑ}よりといふまに郡^{ぐん}の小吏^{せうし}も敬^{やうやう}ふ有^ありてこゑと稱^{ほめ}せ
 一^{いち}ふ妻^{めかけ}のふへづう十四^{じゅうし}歳の時^{とき}に家は専^{せん}ら実子^{じつこ}
 りづゝを^{あひ}てこゑを^{せん}むとて身^み實^{じつ}は父母^{ふぼ}は越^こへけり
 ぬきまば常^ひふ孝^{うやまつ}なりつくえんと云^いひけりしも終^{おひ}
 はま志^{こころ}と果^はさけりて今^{いま}男^{おとこ}と共^{とも}ふ事^{こと}を^{おの}けり多^{おほ}
 々^{くさ}と^{くさ}て候^{さう}と流^{なが}りてとらんま^{おつと}吏^し女^{にょ}を^おまへも能^{よく}

事へくるが是もを以て死にけむるま子今乃安を更ふ婦
と運へあまともよくわきみ家内益敷睦まて互に
隔るる事なりい事 政府より人へ安永
九年子四月未若干と初い寝安下る

三生聖村八家集

八右衛門を安上申取こぞのて生聖村の里胥しきやをなまがかり
人ひととかり温厚おんこうにて兄をなまめ事ことづく情なさけなり平生
中をまが家資しんぎをうかりと深く難がたと又十歳とけより
乃すなはぶといふと嬰えんと云ふやどに同居どうきよして兄あに乃すなはち

農と勤め己が力に役する衣被糸のその所も又恩と
 顧と常小言倫と用ひる人の奴隷と仕りめど
 おれまあれ代り働く事虚日なりすまも亦
 性涼垂りて八右衛門は於家友なりとぞす家
 なる睦友同云ふなり先の年八右衛門年比も
 乃るふよりすまも孝成分ち居と笑うやんと
 心別な家と笑ふもて八右衛門は事と告めきた
 肯ずて云我れくち生涯豊と同一て兄は事へん
 と思ふか能く且阿兄家よりゆる小田圃及び家



資と我より分ち給ふ家やがて衰へん我は
憂ふる所なり故に人より於ては聊も怠る事
事かたきといひて固く群るる事なく日暮る業と
つむる事無くとも能くする所は 公の余慶の
つむる年貢の米と収ふる道乃程適るる事と
ハチ重の月と米と預ひて運び納む又邑の休日とて
農事と止る日はあつたば親族或ハ常に遊
ふ人けりていふに産業のたよりとるをすま
家内多く家資限るる事とてハチ重が精力あり

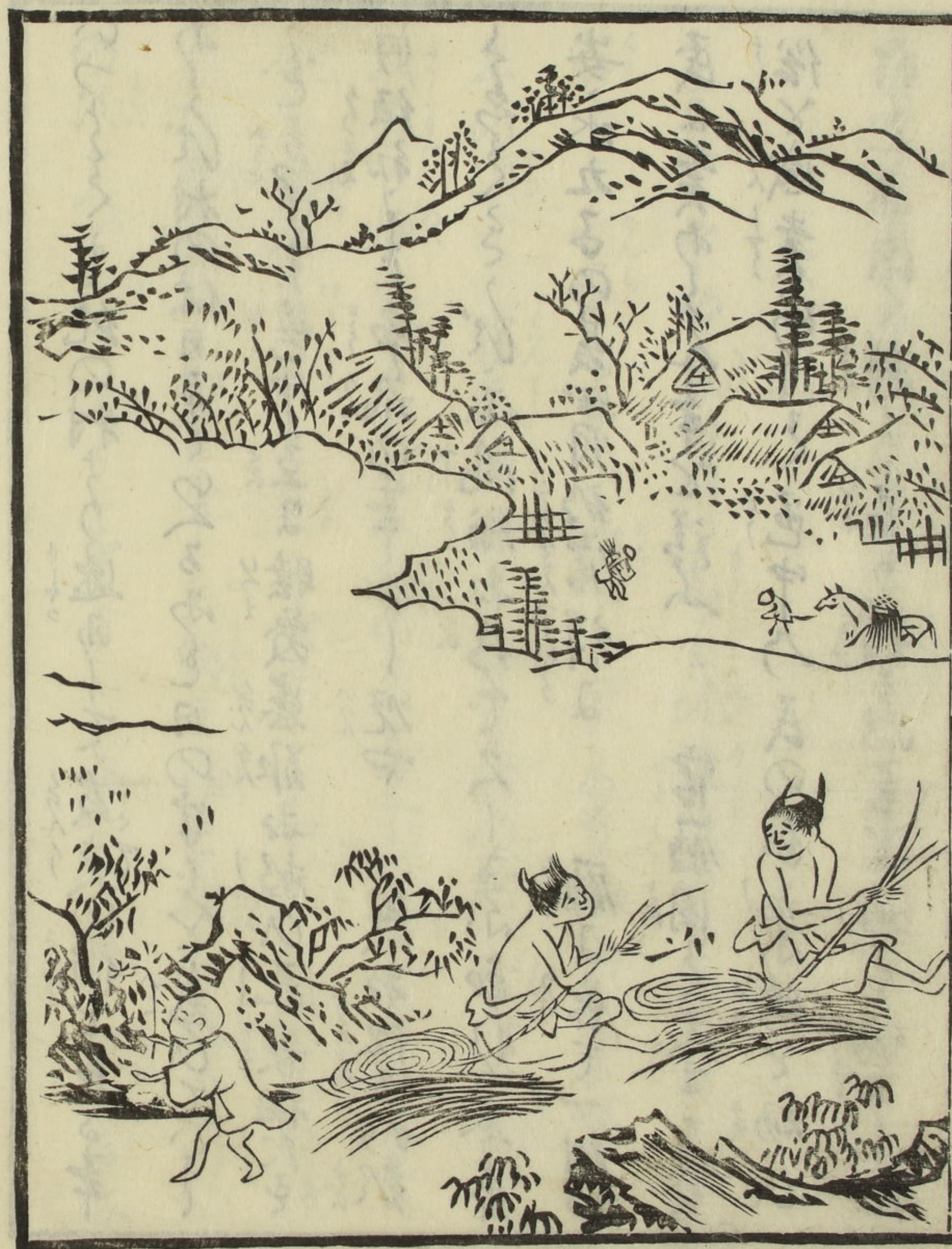
稍産と破づるは即ちハチ重の勤めく傾くとりて
才を失ふて進て妻と入る家と分ちハチ重の素
意は遠ふとかけき所なりとも兄あつたりは
勤むる事切るるがあらま怠る能くやうくを
年ふ十歳ふ及び初て居と呆ふなりとも稼
穡乃いふぬをた外席と職くあると鬻るるを價と
おのゝなるふとて悉く兄才を夫が故に納むかふ
奇物の志同邑ハちなり隣邑にありて採て
若し一を事遂ふ 政府は同也固て安永九年

夏四月采桑干と移ひて懐友と貴せし家

兼田村

を最上中郡兼田村へ素より地狭隘なりて民久しく
苦しむ少量の事と所ありて移るは享保十二
年の頃 官廳商賈一々其村の所へ理ありきと
久患と憚るる年毎小救の采桑干と移し事と定め
令ど固て邑民を慰み感ぜしや尔來村中お儀
して農とつとむる事矣郷は猶耕し耕り前へ
の秋まで此は後る事なりて其年の貢と納るも亦

いつとも此の村より速めて友吏の徴と交する事
ありて村の休日なりといふも日の中をを息ひてい
ふもあらず邑中互に睦友睦友お救ひ死喪相たを
け復初と多端の事なり況や 公へお江るお親
とあつとさうぶと風俗お好で久きふ即ち今年
安永九子の夏四月初官解ふ 廳は告て一村の
民は貴あつとん事と清ふ 官廳固く大は主英
俗と感貴ありて邑中乃民の家毎小救と移ひ
移る亦亦耕し易り釋るれと永く懐きん

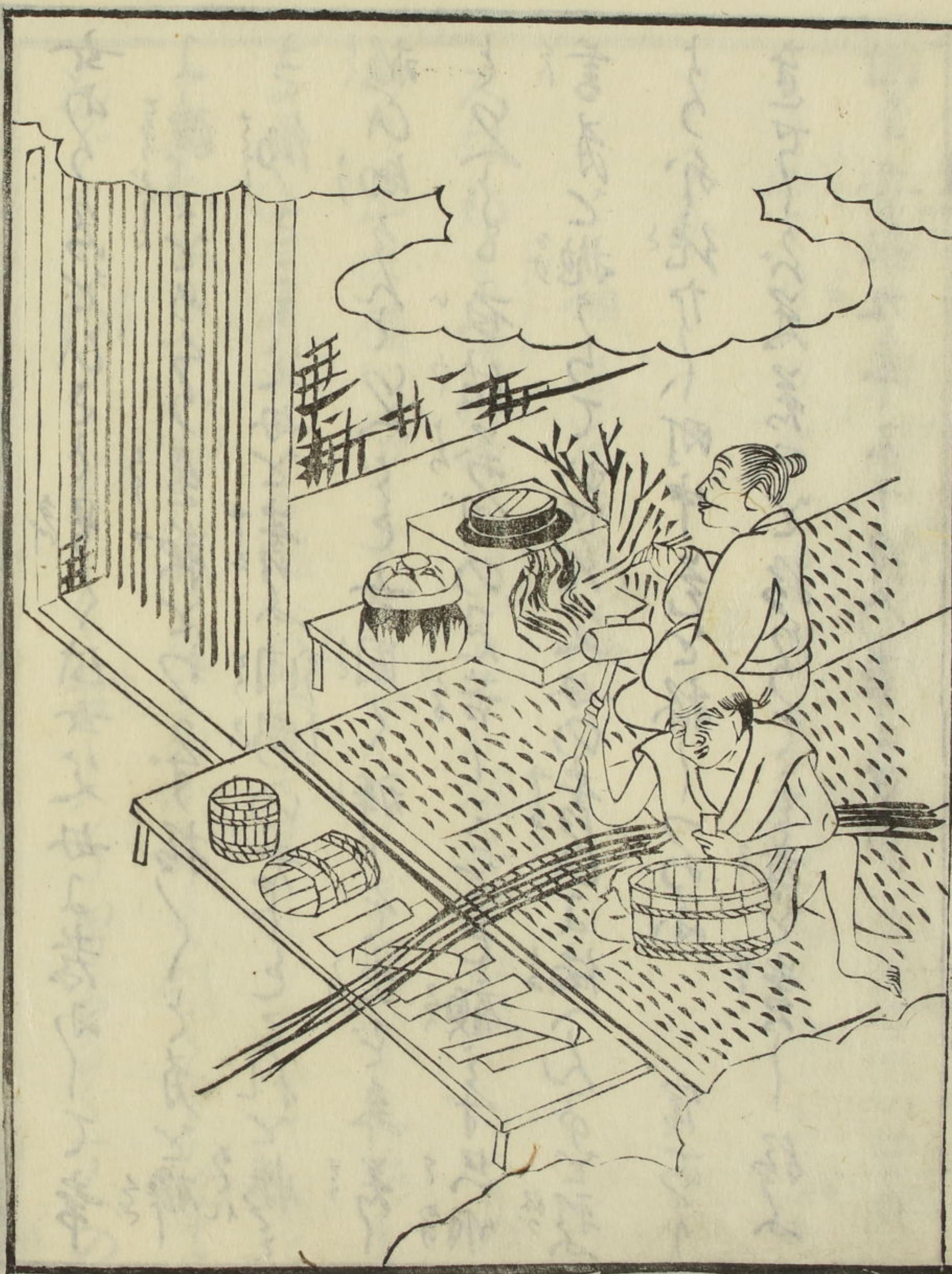


事と厚く教戒の令とト一又主里番及び位長の
職又けへる事と貴でしき儀と初め事も差あ
りしふ

桶屋庄右衛門

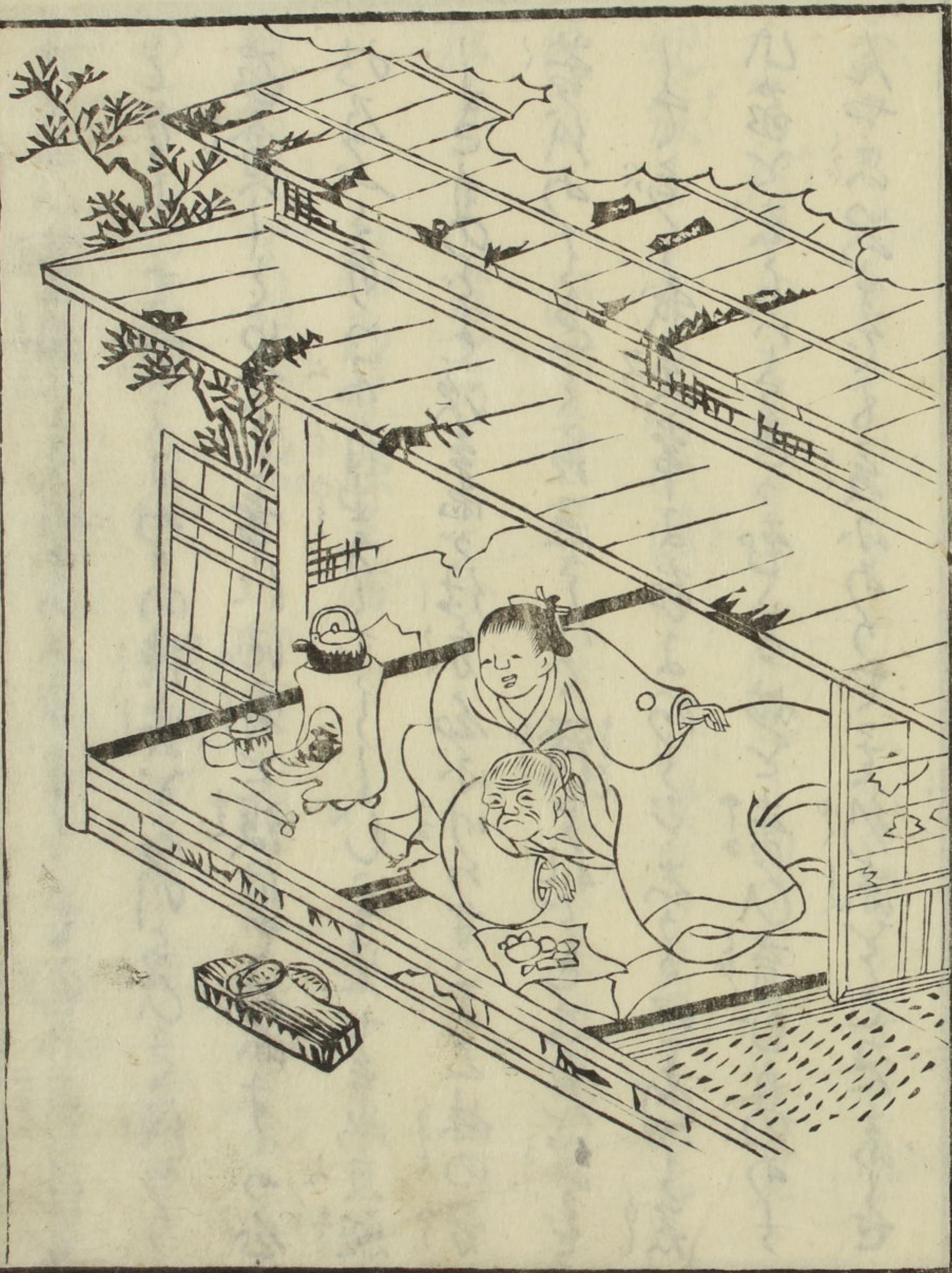
大坂郡高濱横町といふ桶屋庄右衛門といふ
あり年は桶と作事紙業とでいふは年格を
よ及び十の余りも能くして業となしゆも能く
し書もそのふむひぬまふあつたふも
ぬぐく極く貧しく若しより男子あり一人の

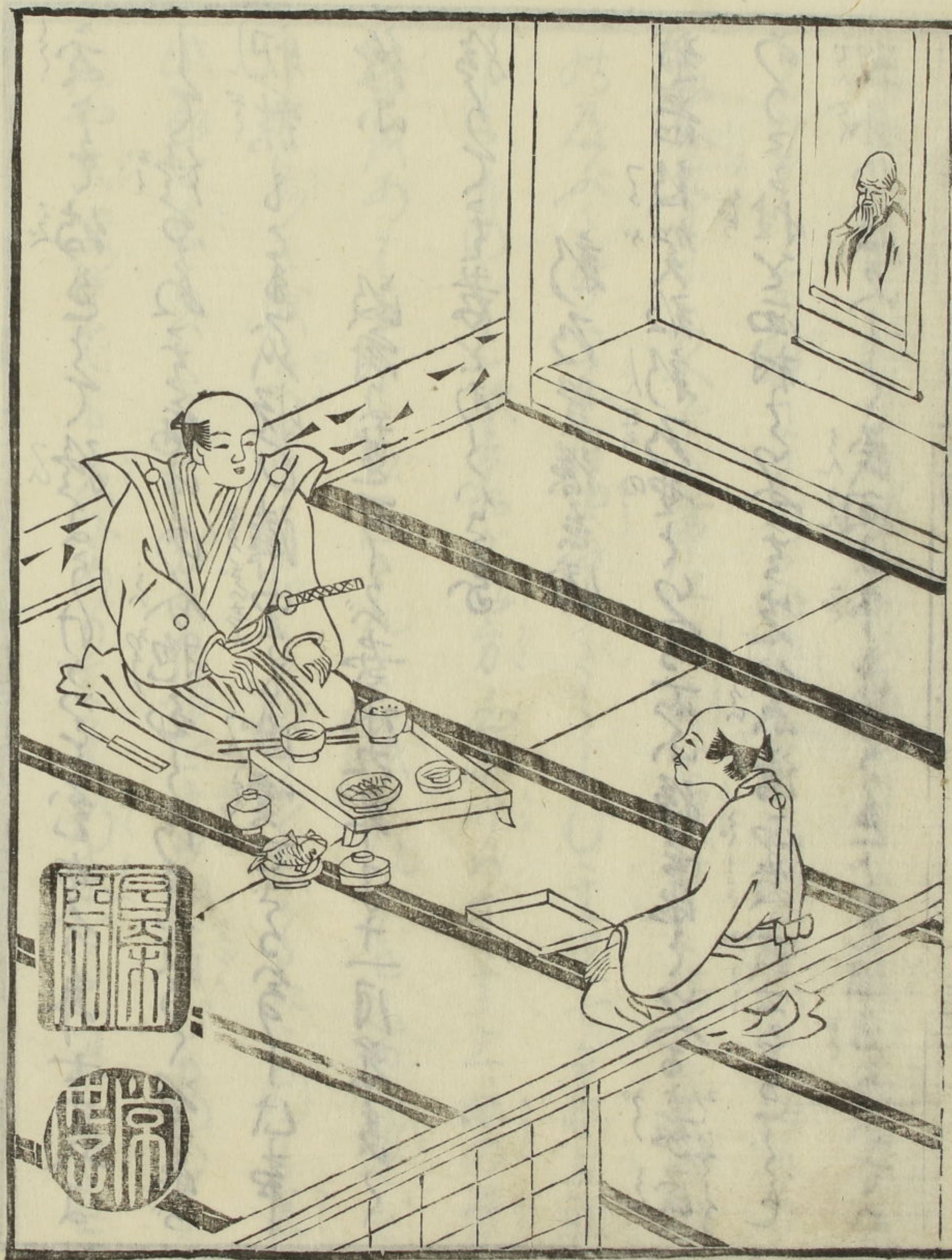
女あり名といふと号くは女父母は孝ありて常
に隣とめぐるを教とわす振くと力を確
き働とて父母と共々同僚の老とこれと懐
ぬひぬんとしと女固く辞して更む年若
しととも夜披美川の足苦しととも顧みず只
苦めと抛うらてかた父母の苦ひは恤へんゆと
より外化なり町中を称しつるふ 官あり
なりふ年若干と終りて主者と貴し一終り
内よ安永九年五月乃事あり



堀口次を誘妻

小濱富沢所小堀口次を誘ふ商人ありていふはたを
 松もきりたりて近年産と失ひて事小家ありて
 あり常に京都の方へ見ゆの商乃てあふは来りて
 大方の家小ありて次を誘ふ妻あるもんは百里を去る
 りとの妹ありて性質欠実ありて常に姑事人
 て孝あり又次を誘ふ先婦乃子ありて是とて事
 ありてむりむりてありて姑年をひひておあり
 此理ありて次を誘ふ人とも聊も違ふて能く事





比がさ門胃の老るる祖孫を束むる
 知るれ比より領内乃米穀と江州大津へ運送さる
 ぬるふも事ふらづる一ぐも封内ふわつて他邦おめと
 等しく庭米九驛ノ米穀と運ぶは必も米驛驛乃屋は後とて其の
 駁は送るある定めてそを倉庫トて米とすこれ庭米と号
 と効ん事思ふわつとて宛文のは固く辨し向後
 庭米と効らざうて公用とつむべしとあらふ又長ふ
 清くは事
 志と稱しあひ
 城府ふりて饌とむり且二人は糧と
 むふ志るにさ後あるくま侍と給ふ辞令あらう

存焉。桀不亡者。亦可見其小驗矣。此
編記以方言里語而不文其詞者。蓋
為聖人加之勸勉也。後之覽者。惟以
之實是取諸。塩氏之意則足矣。衛詩
曰。采芣苢。采芣無以下體。吾亦云。

安永庚子秋八月

若耶記室

西依景翼識

侍えきく人を見るは先き友と人ると
かや子と見て親とする氏と見てふと
志はもくし亦同し。其本にありしハ未加
なりす。義あり。字芥市井を僕奴婢
まふふとふとたる。委致し。或ハ力と孝
順也。竭す。よむ。海に掬ふ。このらさ。海
は書成り人の事。誰か或親ある。その
ハ必物ふ好し。其起り其代をく。なる

一徳乃流しを傳ふるも是
がゆや作とさる一此おくがさる
風月堂の主人予ふが志むしを
るま又字とあらはれ然きとも主人や
志あるるをいふ久しあきいふも
いふみかしくわくそを貴と傳ふと
はなるもさるを恥と傳ふと
安永辛丑の春 手島伝謙書

天明元辛丑歲九月之吉

京師書肆 風月莊左衛門發行

